

お盆にまつわる言い伝えクイズ【解答・解説】

① (2) ご先祖さま

お盆は、亡くなった先祖や家族の霊を迎え、供養する行事です。もともとは、旧暦の7月（新暦の8月頃）に行われていました。しかし現在は、新暦の7月に行う地域と、1カ月後の8月に行う地域があります。そのため、始まりと終わりの日は地域によって異なります。

② (3) 鏡もち

お盆は、お墓参りや盆踊りをして先祖の霊を慰める伝統行事です。今では夏祭りのイメージが強い盆踊りも、本来は霊を慰めるための盆行事のひとつでした。よって、(3)の鏡もちは間違いです。

③ (1) ご先祖さまの足元を照らすため

家の玄関前で焚く迎え火には、足元を照らしてご先祖さまの霊を迎えると同時に、危険な悪霊を追い払う役割があるといわれています。一方、送り火は故人を見送るために焚きます。地域によっては、無病息災を願って送り火や迎え火の灰をまたぐところもあるようです。

④ (2) 仏教行事に由来する

お盆は、仏教行事である「盂蘭盆会（うらぼんえ）」の略称だと考えられています。盂蘭盆会は、釈迦の弟子の一人が地獄で苦しむ母を助けるために、先祖の供養をしたことが始まりだと伝えられています。

⑤ (1) 灯籠流し

地域によっては、お盆の最終日に灯籠流しをして霊をあの世に送ります。長崎県や熊本県などでは、送り火の一種として精霊流しが行われます。どちらもご先祖さまを送る際のお盆行事のひとつです。

⑥ (3) きゅうり

お盆には、ご先祖さまの乗り物としてきゅうりやナスに割りばしや爪楊枝を刺し、馬や牛に見立てる風習があります。あの世から来るときはきゅうりの馬、帰るときはナスの牛に乗って帰ると言い伝えられています。来るときは急いでいるため足の速い馬に乗り、帰りはゆっくり戻すために足の遅い牛に乗っていく、とのいわれもあります。

⑦ (3) ホオズキ

お盆には、ご先祖さまが迷わずに帰って来られるよう、目印としてホオズキを飾ります。体を持たないご先祖さまは、お盆の期間中、ホオズキの空洞の中で過ごすともいわれています。

⑧ (1) 提灯

お盆には、ご先祖さまが迷わず家に帰って来られるよう提灯を飾ります。提灯の灯は、ご先祖さまが戻ってきたことを表すそうです。それと同時に、故人への感謝を示すものでもあります。

⑨ (3) ご先祖さまが持ち帰る荷物をくくるための綱にするから

お盆最終日、ご先祖さまはナスの牛にさまざまな荷物を乗せ、あの世に帰るといわれています。その際、荷物をくくる荷綱にするために、そうめんを供えるそうです。そのほか、そうめんを糸に見立てて「糸のように細く長く、幸せでありますように」との願いが込められているとの説もあります。

⑩ (2) 大文字焼き

大文字焼きは、お盆の精霊を送るため、山上に「大」の字を浮かび上がらせる京都の伝統行事です。5つの場所で行うすべての送り火が、「京都市登録無形民俗文化財」に認定されています。今では、夏の風物詩としても有名です。